

P8310710.JPG 2019/07/17

慶応三年八月二十四日より慶応三年八月廿九日まで

数行過雁度三更 客子幾回眠易驚 一夜涼風別添力 満山林樾尽秋聲

P8310710 right

廿四日辰 晴

午下より裏通り、番屋<sup>ぶ</sup>を廻り一見、御場所見廻る

廿五日巳 晴雲漸々陰

御代官手代多久某を呼び御金繰等の義を敲(たた)く、住僧よりイナダ魚一尾贈らる、又鮎(三尾)贈られ且

防蠅器を貸與る、謝する、煙草一管を以てす、午時より御場所見廻る、御普請手繰御金繰の義等竹内へ縷々内状を以申遣す

廿六日午 雨帯風終日不止 暖度七十度(撰氏廿一度)

雨天休職

廿七日未 雨意終日

P8310710 left

松気蒸成秋菌新 酥茎箇々雨餘旬 何量官海塵頬吏 喫此山村真珠<sup>珍</sup>

山本(長)より志願<sup>□</sup>遂の報書へ宇野(郁)、鈴木(浩)入札の為め様仕書下る、開札相済候に付、明日より一と先づ手引の積り

廿八日申 雨終日

昨夜坂地より御用状届、字(プロイセン)公使上坂の旨、但筑よりの書状飛書、江連(加)より

(当所近況菊池(豫)返書兼<sup>□</sup>州考案)書状(礪川へ秘封入)認め置く

廿九日酉 雨断続(の儀<sup>□</sup>て申来る、添田一昨着せしとて来る面す

多久(謹)

帰坂せんとて来る、斉藤(六)へ伝言托し遣す、午下より御場所見廻る、海岸、石垣、波除石垣地

平場とも開札

猶荷揚げ場石垣

暖度七十五度(撰氏廿四度)

(落札)元塚奉行御役宅当所へ引移の儀御城代より達書来る、惣坪地平均(六万九千八百五十両)

海岸石垣二百間(八千二百両)波除築

出(九千両)三口共、地元庄屋四郎太夫落札本日申渡の積り、右の廉<sup>□</sup>江戸表御用状 並昨認の

三通を一書に

いたし差立る、午後会所出勤、入堀石垣入札、猶前文四郎太夫落札也、坂地同役より急使調<sup>□</sup>

(内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

<sup>□</sup>印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。